

中小企業の生産性向上に向けたFinTech (フィンテック)の活用に関する意見(概要)

基本的な考え方

・近年、「ITを活用した革新的な金融サービス(フィンテック)」が急速に進展し、中小企業経営に影響を与えようとしている

・現在、地域の一部の中小企業は、新しいフィンテックの動きをチャンスと捉え、「IT(クラウド会計など)を活用した生産性向上」を実現

・今後、より多くの中小企業が、生産性向上に向け、「フィンテックを積極的に活用すること」が望ましい

I. フィンテックが中小企業に与える影響

・フィンテックによって、中小企業にとって重要な「金融(資金管理、決済、資金調達)の利便性が向上」する

□資金管理・クラウド会計やモバイルPOSレジなどにより、会計・販売動向などをリアルタイムに見える化できる(経営の見える化)

□決済・キャッシュレス決済(クレジットカード、電子マネー、スマホ決済など)への対応により、「顧客減少の回避」「業務の効率化」を実現

□資金調達…「個人からの資金調達」や「会計・取引データなどを審査に活用する新たな融資」など、「資金調達の多様化」を実現

II. フィンテック時代における中小企業が目

指すべき姿・課題

・目指すべき姿…現状のアナログ(電話、紙、FAXなど)業務をデジタル化し、「業務フロー・会計・決済プロセスのデータ連携」の実現

・課題…事業者のITリテラシー、各種ツールの費用負担、IT支援体制(施策×中小企業支援機関×IT支援人材×IT事業者)

III. 中小企業のフィンテックの活用に向けた今後の対応

1. 中小企業の対応

- ・複数のビジネスアプリ(クラウド会計、モバイルPOSレジなど)の活用による業務フロー全体のデータ連携
- ・ネットバンキングの利用
- ・キャッシュレス決済への対応

2. 商工会議所の対応

- ・支援体制構築(経営指導員のスキル向上、IT支援人材・IT事業者との連携)
- ・情報発信(会報・HP・会議・巡回・窓口相談などによるIT施策の情報発信)
- ・合同支援(フィンテック・IT活用方法やIT施策に関するセミナー・相談会の開催)
- ・個別支援(経営指導員などによる個別相談などにより、「経営課題を抽出」し、「計画策定」「ITツールの導入」「軽減税率対策

補助金の活用」などを伴走支援)

3. 国の対応

(1) 中小企業対策の強化

- ・複数のビジネスアプリの導入・活用支援(補助金など)
- ・低費用負担などで利用できる金融インフラ整備(キャッシュレス決済、ネットバンキング、オープンAPI、電子記録債権、XML電文・金融EDI)

・資金調達の多様化の推進(クラウドファンディングなど)

- ・資金回収早期化(締日慣行の見直し、SCC短縮化)の推進
- ・受発注業務などのIT化の推進

(2) IT導入に向けた支援体制の強化・人材育成

- ・支援体制構築(中小企業支援機関×IT支援人材×IT事業者)
- ・複数ビジネスアプリに精通したIT支援人材やIT事業者の育成
- ・リスト化・法認定、ビジネスアプリ・コイディネータ(仮称)の創設

(3) フィンテックを支える基盤(企業・人材・技術など)の強化

- ・フィンテック企業(規制のサンドボックスの推進など)・フィンテック人材育成
- ・セキュリティ対策、ブロックチェーン技術の活用推進